

JIS

ロサンゼルス試験機による 粗骨材のすりへり試験方法

JIS A 1121 : 2022

(JCI)

令和 4 年 12 月 25 日 改正

日本産業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本産業標準調査会標準第一部会 土木技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	久田 真	東北大学
(委員)	石田 知子	株式会社大林組
	鹿毛 忠継	国立研究開発法人建築研究所
	加藤 絵万	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所港湾 空港技術研究所
	加藤 佳孝	公益社団法人日本コンクリート工学会 (学校法人東 京理科大学)
	鎌田 敏郎	公益社団法人土木学会 (大阪大学)
	古賀 裕久	国立研究開発法人土木研究所
	鈴木 澄江	工学院大学
	中山 英明	一般社団法人セメント協会
	野口 貴文	一般社団法人日本建築学会 (東京大学)
	原田 修輔	全国生コンクリート工業組合連合会
	前田 敏也	一般社団法人日本建設業連合会 (清水建設株式会 社)
	宮田 喜壽	防衛大学校
	丸山 慶一郎	一般財団法人建材試験センター
	柳田 直	特定非営利活動法人コンクリート製品 JIS 協議会 (株式会社日東)
	吉田 敬	公益社団法人地盤工学会 (応用地質株式会社)

主 務 大 臣：国土交通大臣 制定：昭和 29.10.20 改正：令和 4.12.25

官 報 掲 載 日：令和 4.12.26

原 案 作 成 者：公益社団法人日本コンクリート工学会

(〒102-0083 東京都千代田区麹町 1-7 相互半蔵門ビル TEL 03-3263-1571)

審 議 部 会：日本産業標準調査会 標準第一部会 (部会長 松橋 隆治)

審議専門委員会：土木技術専門委員会 (委員長 久田 真)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者、国土交通省住宅局 住宅生産課 [〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-3 TEL 03-5253-8111 (代表)] 又は経済産業省産業技術環境局 国際標準課 [〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1 TEL 03-3501-1511 (代表)] にご連絡ください。

なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本産業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	2
4 試験用装置及び器具	2
4.1 ロサンゼルス試験機	2
4.2 球	3
4.3 はかり	3
4.4 乾燥機	3
4.5 ふるい	3
5 試料	3
5.1 試料の採取	3
5.2 試料の調製方法	3
6 試験方法	4
7 計算	4
8 報告	5
附属書 JA (参考) ロサンゼルス試験機による製品粒度における粗骨材のすりへり試験方法	6
附属書 JB (参考) JIS と対応国際規格との対比表	8
附属書 JC (参考) 技術上重要な改正に関する新旧対照表	12
解 説	15

まえがき

この規格は、産業標準化法第 16 条において準用する同法第 12 条第 1 項の規定に基づき、公益社団法人日本コンクリート工学会（JCI）から、産業標準原案を添えて日本産業規格を改正すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、国土交通大臣が改正した日本産業規格である。これによって、**JIS A 1121:2007** は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。国土交通大臣及び日本産業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

ロサンゼルス試験機による粗骨材の すりへり試験方法

Method of test for resistance to abrasion of coarse aggregate by use of the Los Angeles machine

序文

この規格は、2019年に第1版として発行されたISO 20290-2を基とし、我が国の実情に合わせるため、技術的内容を変更して作成した日本産業規格である。

なお、この規格で、**附属書 JA** 及び**附属書 JC** は、対応国際規格にはない事項である。また、点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。技術的差異の一覧表にその説明を付けて、**附属書 JB** に示す。

1 適用範囲

この規格は、ロサンゼルス試験機による粗骨材のすりへり試験方法について規定する。ただし、構造用軽量骨材には、この試験方法は適用しない。

なお、この規格は、粒径の範囲が5 mm～2.5 mmの細骨材にも適用可能である。

製品粒度における粗骨材のロサンゼルス試験機によるすりへり試験方法を、**附属書 JA** に、技術上重要な改正に関する新旧対照表を、**附属書 JC** に示す。

注記 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 20290-2:2019, Aggregates for concrete—Test methods for mechanical and physical properties—Part 2: Method for determination of resistance to fragmentation by Los Angeles Test (LA-Test) (MOD)

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、ISO/IEC Guide 21-1に基づき、“修正している”ことを示す。

2 引用規格

次に掲げる引用規格は、この規格に引用されることによって、その一部又は全部がこの規格の要求事項を構成している。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS A 0203 コンクリート用語

JIS A 1102 骨材のふるい分け試験方法

JIS A 1158 試験に用いる骨材の縮分方法

JIS B 1501 転がり軸受—鋼球